

## ■高校野球のケーススタディー（第5回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

### ○ アピール権って、どの時点で消滅するのでしょうか・・・？

秋季兵庫県大会の準決勝、息詰まる投手戦でのことでした。

1対1で迎えた延長10回の裏、1死1、3塁。打球は左中間へ上がり、中堅手がダイレクトで捕球し、3塁走者はタッグアップをしました。

中堅手は、懸命に本塁へ送球しましたが、3塁走者の本塁到達が早くサヨナラ！勝利を確信したチームの選手は、歓喜とともにベンチを飛び出し、すでに本塁で整列をしようとしています。

送球を受けた捕手は、少しうなだれた様子でボールを球審に渡そうとしていました。

そのとき・・・3塁手は、3塁ベース上で走者のリタッチ（離塁）のアピールのため、大きな声で捕手にボールを送球するよう声を上げていました。

球審にボールを渡そうとしていた捕手は、その声に気付き、3塁へ送球しました。3塁手は、続いてアピールをしましたが、正しいリタッチを果たしていたという判定となり、勝敗が決しました。

さて、このケースですが、アピールができるのはいつまででしょうか？

もし、捕手が球審にボールを渡していたらどうなっていたのでしょうか？

これは、「アピール権の消滅時期」の問題です。

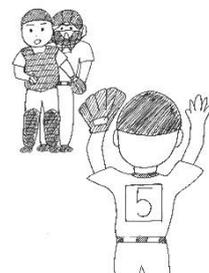
もし、捕手が3塁手の声に気が付かずに、球審にボールを渡していたら、アピール権は消滅していたのでしょうか。

ルール上では、球審がインプレイ中のボールを受け取った時点で「ボールデッド」となり、ボールデッド中にアピールを受け付けることはできないこととなっています。（アマチュア野球内規⑧）

ところが、サヨナラの場面で決勝点が入ったときは、球審がボールを受け取りボールデッドになってしまうと、再びインプレイの状態になることはありません。

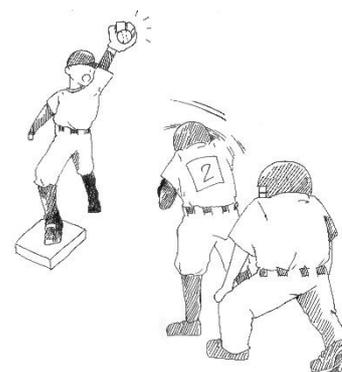
そこで、アマチュア野球内規⑦では、「最終回の裏ボールデッド中に決勝点が記録された場合、または降雨等で試合が中断され、そのまま試合が再開されない場合、ボールデッド中でもアピールはできるものとする」とされています。

また、高校野球審判の手引き（2019年度）においても、【アピールプレイ】の項目(3)で、「ボールデッドのまま試合終了となる場合は、試合停止中といえどもアピールを受け付ける」となっています。



例えば、本塁打による得点が、サヨナラ決勝点となるような場合で、走者の塁の空過などをアピールする場合も、この規定によりボールデッドの状況のままでアピールを受け付けることになります。

したがって、このゲームの場面、仮に捕手が球審にボールを渡していたとしても、捕手が他の野手のアピールの要求に気付いた時点で改めてアピールをすることが可能であることが分かります。



それでは、この場面でアピール権が消滅する時期は、どの段階なのでしょうか。

アマチュア野球では、「試合終了の場合に限って、両チームが本塁に整列したとき、アピール権が消滅する (5.09(c)【注3】後段)」となっています。

この試合で勝利を確信した攻撃側のチームは、すでに整列していましたので、守備側のチームがアピールすることなく整列していれば、アピールはできなかったということになりますね。

表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科  
坂田 朋葉さん（2年）飛田 紀香さん（2年）